

急に寒くなり、紅葉が美しく色づきました。名所でなくても近くの公園、街路樹も・・・色鮮やかな落ち葉を拾う子どもの姿に季節の移ろいを感じます。現在会員登録数 704 人さま。ご愛読ありがとうございます。次号は 12 月 20 日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》 YO! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 15

《3》 サイト紹介 -子どもの本をリサーチする-

《4》 行って来ました!

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 第13回国際グリム賞 贈呈式・記念講演会

「明日の夢へ向かって 中国児童文学の過去・現在・未来」参加者募集

日 時：平成23年12月11日（日）午後1時30分～4時30分

会 場：大阪国際交流センター（大阪市天王寺区上本町8-2-6）

講 師：第13回国際グリム賞受賞者 蔣 風 教授

聞き手：成實朋子（中国児童文学研究者・大阪教育大学准教授）

三宅興子（当財団理事長）

定 員：150人（申込先着順）

参加費：無 料 ※通訳付き

主 催：財団法人 大阪国際児童文学館 / 財団法人 金蘭会 /

大阪府立大手前高等学校同窓会 金蘭会

お申込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/>

● 東日本大震災で被災した子どもたちに本を贈る

『いっしょだよ』募金のお願い！被災地の学校、幼稚園、保育所、地域文庫などに子どもの本を購入して送ります。ご協力をお願いします。

◎ 募金是最寄りの郵便局から郵便振替による送金をお願いします。

口座番号：00970 - 9 - 12891 加入者名：毎日新聞大阪社会事業団

・通信欄に「子どもの本」と明記ください。

・お名前を毎日新聞に掲載させていただきます（匿名にもできます）

・税制上の優遇措置が受けられます。

\* 本そのものの寄付は、受け付けておりません。ご了解ください。

主 催：財団法人 大阪国際児童文学館 / 大阪府書店商業組合

毎日新聞社 / 毎日新聞東京・大阪・西部社会事業団

詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/>

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

---

## 【2】コラム

---

\*\*\*\*\*

### 《1》 Y O ! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

\*\*\*\*\*

『風の海峡』上・下 吉橋通夫/著 講談社 2011年9月

あらすじ：対馬の商人であった父とともに何度も朝鮮半島に渡り、仲良くする友だちもいた梯進吾（かけはししんご）が豊臣秀吉の朝鮮出兵のために、敵として朝鮮半島に渡り、時に通訳として働いたり、朝鮮の人たちと過ごしたりしながら、戦争の矛盾、国と国との争い、人と人とのつながりについて考える。

Y：スケールの大きな歴史小説としてたいへん興味深く読みました。

O：私は、地理的には日本より朝鮮半島に近い対馬に住む16世紀末の一人の少年を主人公にして国家と個人の関係のねじれや行き違いを描いている設定が魅力で、ぐいぐい読み進みました。

Y：進吾は父親とともに通訳として朝鮮半島へ行き、これまで兄弟のように仲良くしてきた同い年の俊民とその妹の勢雅（セア）の両親が殺されているのを見つけます。そして、勢雅が日本の武将に捕まっているのを助けようとした俊民も進吾の目の前で殺されてしまいます。読者は進吾の視点を通して秀吉の朝鮮出兵がいかに無謀な侵略であったかを強く感じます。

O：朝鮮の人にとっても対馬の人にとっても、また、秀吉から出兵を命じられた武将たちにとっても矛盾に満ちた出兵であったことと同時に、その中で一般人を含む多くの人が殺戮され、略奪されていく様子が丁寧な調査を踏まえてしっかりと書かれています。

Y：家臣の命を救うため朝鮮軍に投降した日本軍の武将など、さまざまな立場の人が描かれていて当時の複雑な状況がわかるようになっています。

O：朝鮮半島と九州の間に位置する対馬の人たちの思いと国境問題は今につながる問題です。現代も世界の至る所で生じている「紛争」のことを考えてしまいました。

Y：結末は戦が終わって進吾の朝鮮側の抵抗勢力にいた香玉との恋愛が成就するというハッピーエンドです。

○：未来に希望を託すということでこの結末になったのでしょうか。国際結婚は、国家間の偏見をなくす近道ですしね。香玉の言動や立場を考えると、すんなりいったかな、なんて思っていました。

\*\*\*\*\*

## 《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 15

\*\*\*\*\*

### 「その5 絵本の選び方(10) 絵本を評価する：ジャンル a. 昔話絵本」

予定を変更して、ジャンル別の絵本の選び方についてしばらく書かせていただきたいと思います。昔話の中には楽しい話がたくさんあり、語り継がれてきた人間の哲学や知恵が豊富に含まれているため、子どもたちに伝えたいジャンルの一つです。けれども、昔話は語りの文化であり、それを絵本で伝えるということになると、語りのままの文章に絵をつけたのでは、必ずしも昔話絵本として楽しめる作品になるとは限りません。言葉だけで語って想像できるメディアを絵とことばで楽しめるメディアに変換する必要があります。

そこで、まず、絵に関していえば、語り始めの「むかしむかし、あるところに、おじいさんとおばあさんがいました。」という状況設定の言葉は、「むかし」とはいつか、「あるところに」とはどこか、「おじいさんとおばあさん」は、どんな人かについて絵で描かれる必要があります。そこに画家の昔話に対する解釈が読み取れます。

文化的な背景が絵で描かれることも昔話絵本の楽しみです。例えば、『三びきのやぎのがらがらどん』（マーシャ・ブラウン/絵 瀬田貞二/訳 福音館書店）では、やぎを襲おうとするトロルが岩の怪物のように描かれていますが、背景の山が岩でごつごつしているからこそ、トロルの存在を信じることができます。

昔話絵本のページ構成も、語りの構成を生かしながらも、よくある3回の繰り返しなどは同じ絵、ページ割りではなく、構図の変化やページ数に変化をつけることで読者を飽きさせない、クライマックスに向かわせるなどの工夫が必要です。

言葉に関して言えば、絵で語られている部分については、それでもなおかつ言葉でも語るのか、そぎ落としてしまっているのかという判断が的確かどうか問われます。大切な部分は両方で、説明的な部分は絵で語れば言葉は省略するということが必要になります。そして、擬音語や擬態語、繰り返しのことばや会話など、言葉でなくては理解できない部分や言葉があるからこそ楽しめる部分は、語りのよさを生かした文章であることが重要です。このように、昔話絵本には特有の評価の観点があり、それらを踏まえて絵本を選ぶことが必要です。

\*次号では「その5 絵本の選び方(10) 絵本を評価する：ジャンルb. 空想的な絵本」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思えます。(Y)

\*\*\*\*\*

### 《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

\*\*\*\*\*

資料所在データベース 15 回目。今回ご紹介するのは、次のサイトです。

●米沢嘉博記念図書館（設立主体：学校法人明治大学）

[http://www.meiji.ac.jp/manga/yonezawa\\_lib/](http://www.meiji.ac.jp/manga/yonezawa_lib/) から [蔵書検索] へ

前回ご紹介した京都国際マンガミュージアムはマンガに特化した施設ですが、近年クールジャパン（日本文化のソフト領域＝マンガやアニメ、サブカルチャーが国際的に高く評価されている現象）の影響もあり、こうした施設の建設がいくつか予定されています。

2014 年度にオープン予定の「東京国際マンガ図書館」（設立主体：学校法人明治大学）もその一つで、マンガ・アニメ・ゲームおよび関連分野の資料保存、ならびにその学術・文化的運用をめざし、現在準備が進められています。

この施設の核となるコレクションは、マンガ評論家で「コミックマーケット（略称：コミケ）」設立に大きな役割を果たした故・米沢嘉博さんの膨大な旧蔵資料です。コミケは 1975 年に始まった日本最大の同人誌即売会で、年 2 回（夏と冬）開催、三日間で延べ入場者数約 50 万人、参加サークル数約 3 万 5 千を集める巨大イベントとして知られています。

こうしたイベントを手がけてきた米沢さんが集めた資料は、マンガの雑誌・単行本・同人誌からサブカルチャー関連書まで、総計 14 万冊以上。それらがすべて母校である明治大学に寄贈され、同館コレクションの核となるわけですが、それに先行して開館しているのが「米沢嘉博記念図書館」です。

サイトでは、収蔵資料の一部が検索できます。週刊誌の「少年マガジン」や「少年ジャンプ」「少年サンデー」、「少女フレンド」「なかよし」といった雑誌の所蔵も多く、今後マンガ文化の研究資料拠点になる施設です。一度、サイトをご覧になってみてはいかがでしょうか。（J）

※次号は、資料所在データベース篇〈その 16〉の予定です。

\*\*\*\*\*

### 《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

京都の百萬遍知恩寺で開催された古本まつりに行って来ました。お寺の門をくぐると境内所狭しとテントが並び、雨よけの透明シートが張り巡らされた各店をのぞくたびに時間の空間を移動するようで不思議な気分です。

店ごとに特徴はありますが、ほとんど分類や年代分けされず、新しい本の中に大正時代のものが混ざっていたりします。子ども服を作る洋裁の本や、西洋料理の本など、おもしろそうなものがどんどん目につきます。

「こどもたちを本好きに」をモットーに児童書コーナーもありました。『コロコロコミック』の隣に古い『少年世界』が並んでいたりします。『こどものとも』を「これはうちにある、ない…」と選んで、たくさん買い込んでいる親子。外国の人も熱心に物色しています。それぞれに“掘り出し物”基準があるのでしょう。小雨の中、たくさんの方が満足そうな表情で見回っています。

オークションの下見会場で、昔の版木や掛け軸などの中に、英語で書かれたちりめん本の『桃太郎』を見つけました。キューピーのようなかわいい桃太郎で、欲しいなと思いましたが、最低額16万円！とあり諦めました。たくさんのお店が集まった古本まつりは気兼ねなくゆったり楽しめました。(K)

---

### 【3】全国のイベント紹介

---

●資料展示 すきとほつた ほんたうのたべもの『宮沢賢治と子どもの本』展  
会 場：大阪府立中央図書館 国際児童文学館  
期 間：開催中 ～12月25日(日)  
内 容：同館所蔵の宮沢賢治の作品 約50点  
解 説：〈すきとほつた ほんたうのたべもの〉とは、『注文の多い料理店』序文の言葉です。宮沢賢治は、自らの物語の幾切れかが子どもたちにとって〈ほんたうの〉心の栄養になることを願っていました。賢治作品のこれまでの歩みを辿ります。

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきますノ

---

### 【4】プレゼント

---

今号のコラム《1》「YO!この本読んだ？」で紹介しました『風の海狭』上・下をセットで1名の方にプレゼントします。  
ご希望の方は、メールで 件名「IICLO MAGAZINE NO.15プレゼント希望」とし、  
(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス (5)このメルマガのご感想 をお書きのうえ [office@iiclo.or.jp](mailto:office@iiclo.or.jp) にお送りください。  
締切は12月10日(土)、当選発表は発送をもって代えさせていただきますノ

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

膝に衰えを感じ初めてから、妻と友人に誘われ三人だけの“歩き”に出かけています。近場で、春秋の二季折々、天候次第の気ままな私の健康ハイキング。  
雨ニモマケ 風ニモマケ 雪ニモ夏ノ暑サニモマケル 丈夫ナカラダデタイ  
慾ヲモチ 決シテ走ラズ イツモシヅカニアルイテキル  
一日ニ麦酒四合ト 肉ト少シノ野菜ヲタベ アラユルコトヲ ジブンノ  
カンジョウノママニ ヨクミキキシワカリ ソシテワスレル。(A)

---

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
- 配信の登録・解除・変更は、

[http://www.iiclo.or.jp/m1\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html) パソコンからどうぞ

- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

---

発行：財団法人 大阪国際児童文学館 <http://www.iiclo.or.jp/>  
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内  
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp

---

「えほん、ありがとう」たどたどしい字や、かわいい絵の礼状を続々いただいています。被災した子どもたちに本を贈る『いっしょだよ』キャンペーンで、これまでにお届けした幼稚園や保育所の子どもたちの喜ぶ笑顔が見えるようです。募金をいただきました皆様、ありがとうございます。年内は続けてまいります。現在会員登録数681人さま。次号は11月22日発行予定です／

---

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》 YO! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 14

《3》 サイト紹介 ―子どもの本をリサーチする―

《4》 行って来ました!

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

---

【1】お知らせ

●「おはなしモノレール」参加者募集

大阪高速鉄道「万博記念公園駅」から「彩都西駅」まで、貸切モノレールに乗って、車内で絵本や「おはなし」を楽しみ、彩都の会場では「人形劇」を観ていただくお子様向けのイベントです。

5歳から小学校3年生までのお子様と保護者の方、あわせて240人を募集します。11月6日（日）の午後で、参加費は、お一人500円（大人・子ども同額）です。申込み締切は10月24日（月）必着です。 詳細は↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/01\\_kids/index.html#ohanashimono](http://www.iiclo.or.jp/03_event/01_kids/index.html#ohanashimono)

●「第28回ニッサン童話と絵本のグランプリ」作品募集

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは10月31日（月）です。 詳細は↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/07\\_com-con/02\\_nissan/index.html](http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html)

●東日本大震災で被災した子どもたちに本を贈る―

・その1『いっしょだよ』募金のお願い!

子どもたちに本を!被災地の学校、幼稚園、保育所、地域文庫などに子どもの本を購入して送ります。ご協力をお願いします。

・その2「本の寄贈を希望される施設」の募集!

学校、幼稚園、保育所、児童館、地域文庫など施設の年齢対象、人数等にあわせ、適当と思われる本を購入し保護カバーをつけて送付します。

上記2件とも 詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/>

お申込み／お問合せ：当財団『いっしょだよ』キャンペーン事務局

主 催：財団法人 大阪国際児童文学館 / 大阪府書店商業組合

毎日新聞社 / 毎日新聞東京・大阪・西部社会事業団

●寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

お申込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

---

## 【2】コラム

---

\*\*\*\*\*

### 《1》 Y O ! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

\*\*\*\*\*

『アライバル』 ショーン・タン/著 河出書房新社 2011年4月

あらすじ：一人の男性が妻と娘を残して見知らぬ国へ移住する。移住先のアパートでペットに出会い、一緒に過ごし始める。言葉が理解できないまま、食べ物を見つけ、職を探し、さまざまな人と出会い、最後に家族を呼び寄せる。言葉を使わずに絵のみで表現した本。

O：大型でずっしりと重い迫力のある絵本ですね。はじめて見たときから、著者の仕事には注目してきましたので、やっと、原本そのまま出版されてうれしいです。

Y：一人の男性を主人公にしながら、その男性の家族、出会った人々の過去がコマ割りの映像的な画面で描かれています。

O：アルバムのような装丁で実録を描いているように見せながら、そこに描かれる世界は架空のものです。特定の家族や国ではなく、普通の人々の過去の記録・家族史の集積とでも言えるものに出来上がっているのがすごいですね。

Y：懐かしさはセピア色で統一された画面や、紙の皺からも感じられます。コマ割りで構成された画面をめくると見開きいっぱい描かれた風景があり、圧倒されます。

O：その風景に描かれている建物や配置されている物を一つ一つ見ていくと、既視感のあるものが数多くあらわれてきて、さまざまな文化的背景のものが一つの空間に重なり合って描かれているようです。著者は、風景を「視覚的な比喩」と言っておられますが、どこにもない風景でありながら、どこにでもある・あった風景なのです。

Y：表紙に描かれているのは一人の男性（タンさんがモデルだそうです）とおたまじゃくしとネコが合体したような生き物が出会っている場面です。



ほかにも鳥とエリマキトカゲの合体の生き物など不思議な生き物が多く登場します。最初は違和感のある動物たちも何度も出てきているうちに親しみを感じてきます。この絵本は読者のそのような気づきをうながしていると思います。

○：著者が移民二世のオーストラリア人であって、アボリジニを侵略してきたさまざまな民族が住む短い歴史の国のなかで育ったという背景が、独自の世界観を生み出したのでしょうか。自分をどう位置づけるのかという問題に常に直面して生きてこられたのは確かでしょう。

Y：このような不安感はその多くの画面に描かれる大きな影に象徴しているようにも見えます。タンさんのどの作品でも影はとても印象的です。

○：ごく普通の暮らしやありふれたものを、隅々までいとおしく描いている作品を見ると、しみじみと「小さな平和」の有難さが身にしみてきます。『アライバル』は、一人ひとりに「どう読んだの？」と聞いてみたくなるような、読者に開かれた作品です。

\*\*\*\*\*

## 《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 14

\*\*\*\*\*

### 「その5 絵本の選び方(9) 絵本を評価する：形・大きさ」

絵本にとって形や大きさはとても意味があります。横長の本を開くととても横に長い本ができ、高い建物を描くにはあまり適していませんが、水平に広い空間を描くにはとても迫力があります。一方、開いてちょうど正方形ぐらいの大きさになる縦長の絵本は、安定感があり、落ち着いて画面を見ることができます。縦に細長い本は、空から地面までというような垂直方向に長い空間を楽しむことができます。

本の大きさも作品のイメージに大きく影響します。『ピーターラビットのおはなし』（ビATRIX・ポター/作 福音館書店）は手のひらサイズの小型本です。小型であるからこそ、農場の片隅で暮らしている小さなうさぎたちの様子をのぞきみるというイメージを持ち、作品世界を楽しむことができます。あの本が大きかったら、これほどには多くの人に支持されなかったことでしょう。

一方、大きな生き物が登場する絵本では、大きな画面いっぱいとその生き物が登場することで迫力が増します。『はらぺこあおむし』（エリック・カール/作 偕成社）はミニブックも出版されていますが、あおむしが蝶に変身した最後のページは大きいからこそ迫力を感じます。

近年、ビッグブック（大型絵本）が流行し、多くの絵本が大型化されています。しかしながら、必ずしもすべての大型絵本が成功しているとはいえないと思います。大型の絵本は大勢の子どもたちの前で読むのに適しているという声を聞きますが、もともと絵本は2～3人で楽しむものであり、無理をして大勢で楽しまなくても、元の大きさと楽しめる人数で楽しめばいいのではないかと思います。

もちろん、『えんそく』（片山健/作 架空社）のようなオリジナルの大型絵本もあり、これが理想だと言えます。また、『きょだいなきょだいな』（長谷川摂子/作 降矢なな/絵 福音館書店）のように大型化したことで迫力がでて楽しい絵本もあります。けれども、元の大きさと読むときと、大型絵本で読むときでは、読み方も変化します。そういう意味では、本の大きさが異なるということは別の絵本だと考えるべきだと思います。

以上のように、作品内容に適した形、大きさになっているかということも本の評価の重要な観点の一つです。

\*次号では「その5 絵本の選び方(10)絵本と読者 赤ちゃん～中学生まで」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思いません。(Y)

\*\*\*\*\*

### 《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

\*\*\*\*\*

資料所在データベース14回目。今回ご紹介するのは、次のサイトです。

●京都国際マンガミュージアム <http://www.kyotomm.jp/>

近年、国内のみならず、世界からも注目されるようになった日本のマンガ。2001年には日本マンガ学会が創立され、マンガが学的な対象となることで、研究資料の整備が求められるようになりました。

こうした動きを反映して、マンガ資料の収集・保存をベースに、マンガ文化の振興を目的として作られた施設が京都国際マンガミュージアムです。全国唯一のマンガ学科を持つ京都精華大学と京都市の共同事業で、資料は、明治期以降の雑誌、戦後の貸本から現在のものまで、さらに海外のマンガなど約30万点（2011年現在）に及びます。集めた資料は調査研究に活用するとともに、一般利用（閲覧）にも供されています。マンガに特化した施設としては、全国屈指といってよいでしょう。

資料の検索は、上記HPから「所蔵資料」ー「所蔵資料検索」とクリック。

「キーワード」「年代」「作者」の3項目で調べることができます。

例えば、1940年代を見てみると、「のらくろ」の田河水泡から大城のぼる、芳賀まさる、阪本牙城や宮尾しげをといた、戦前戦後に日本の児童マンガを牽引した作家の作品が出てきます。また、水谷まさるや川上四郎、奈街三郎ら、児童文学の書き手の作品もあり、まだまだ児童文学とマンガが未分化だった時代を感じさせます。

現在、HPからは30万件すべての検索ができるわけではありませんが、他では見られない資料が見つかるかもしれません。マンガを検索したい場合は、ぜひお試しください。(J)

※次号は、資料所在データベース篇〈その15〉の予定です。

\*\*\*\*\*

### 《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

ここは大阪キタの街、天神橋6丁目角のビル。9階にのぼると、あら不思議、そこは浪花の町のなか。ぶらり歩けば江戸時代に迷い込む―「大阪くらしの今昔館」に行ってきました。開館10年記念「大つくりもの 浦島太郎と龍宮城」が開催されていました。天保2年（1831年）の「大坂」の町並みが再現されています。10階から見下ろす、夕焼け空と屋根瓦の景色がきれいです。細い路地から着物を着た子どもが走り出てきて、一瞬目を疑います。

町並みフロアに降りると、大きな「亀に乗った浦島太郎」に出迎えます。「つくりもの」は、神社の遷宮などのお祝い事があると町家の屋根の上などに飾るもので、大阪が発祥とされています。「龍」は、商店の壁を数軒突き抜けて顔を出す形につくられていて、始めは尾の部分しか見えません。吊るされた「魚」がゆらゆら揺れて、海の中のようなようです。奥には「乙姫様」が太郎を待つように立っていました。それらは紙を貼りあわせて作られ、鮮やかに色づけされていて、素朴な懐かしさを感じました。

建ち並ぶ店屋の中に入ることもでき、お風呂屋の様子が見られたり、人形屋では昔懐かしいおもちゃで遊んだりできます。裏長屋のつましいくらしの様子もうかがえます。ふと気がつくと、天井が明るくなり、朝の鳥の声が聞こえてきました。時間につれ景色やBGMが変わるのです。ひとときのタイムスリップを楽しむことができました。(K)

---

### 【3】全国のイベント紹介

---

#### ●田島征彦絵本原画展

会 場：大阪府立大型児童館ビッグバン

期 間：開催中 11月13日(日) まで

内 容：堺市出身の絵本作家、田島征彦氏の代表作品の一つ「じごくのそうべえ」などの絵本原画。旧・大阪府立国際児童文学館に所蔵されていた。

おはなし会：おはなしポップ

10月23日（日）、11月12日（土） いずれも午後2時から

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

---

### 【4】プレゼント

---

今号のコラム《1》「ＹＯ！この本読んだ？」で紹介しました『アライバル』を1名の方にプレゼントします。

ご希望の方は、メールで 件名「IICLO MAGAZINE NO.14プレゼント希望」とし、

(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス (5)このメル

マガのご感想 をお書きのうえ [office@iiclo.or.jp](mailto:office@iiclo.or.jp) にお送りください。

締切は11月10日(木)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／



飄々とした優しいまなざし、あたたかい笑顔。常に子どもとともに歩もうとする凜とした姿勢は終生変わることがありませんでした。10月13日、当財団特別顧問の中川正文先生が90年余の生涯を全うされました。当財団の設立発起人のお一人で、1998年から2005年まで理事長をお務めいただくなど、長年にわたり当財団の歴史を築いてこられ、児童文学の振興に大きな足跡を残していただきました。ご冥福をお祈り申し上げます。(A)

---

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
- 配信の登録・解除・変更は、  
[http://www.iiclo.or.jp/m1\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html) パソコンからどうぞ
- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

---

発行：財団法人 大阪国際児童文学館 <http://www.iiclo.or.jp/>  
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内  
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp

---

おかげさまでメルマガ1周年！

■ ICLO MAGAZINE NO.13 ----- 2011/9/21

★★★ 財団法人 大阪国際児童文学館 メールマガジン ★★★

おかげさまで、このメルマガは発行1周年を迎えました。現在会員登録数616人さま。ありがとうございます。これからも多くの方に永くご愛読いただけるよう、スタッフ一同頑張っております。次号は10月20日発行の予定です！

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 13

《3》 サイト紹介 -子どもの本をリサーチする-

《4》 行って来ました!

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

●オーストラリアの絵本作家ショーン・タン氏による

(1)国際講演会 (2)子ども向けワークショップ の参加者を募集しています。  
会場はいずれも、大阪府立中央図書館 大会議室です。

(1)国際講演会 「ことばを超えて-絵が語る物語の力」

日 時：平成23年10月15日(土) 午後1時～4時

通 訳：多田昌美(美作大学短期大学部准教授)

対 象：一般、読書ボランティアの方など 80名(申込先着順)

参加費：一人 1,000円

内 容：映像を交えて作品を紹介しながら、自作について、絵本について語ります。

(2)ワークショップ 「ふしぎの国の絵本をつくろう」

日 時：平成23年10月16日(日) 午後1時～4時

対 象：小学生 40名(申込先着順)

参加費：一人 500円 通訳：あり

内 容：自著『遠い町から来た話』を紹介し、子どもたちが自由に絵本の創作に取り組みます。

◇主 催：財団法人 大阪国際児童文学館

後 援：大阪府子ども文庫連絡会

協 賛：関西電力株式会社、近畿日本鉄道株式会社、サントリーホールディングス株式会社、パナソニック株式会社、株式会社富士通東北システムズ、ムサシ・アイ・テクノ株式会社

お申し込み、詳細は → <http://www.iclo.or.jp/>

●「第28回ニッサン童話と絵本のグランプリ」作品募集

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは10月31日（月）です。詳細は↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/07\\_com-con/02\\_nissan/index.html](http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html)

●「おはなしモノレール」参加者募集

大阪高速鉄道「万博記念公園駅」から「彩都西駅」まで、貸切モノレールに乗って、車内で絵本や「おはなし」を楽しみ、彩都の会場では「人形劇」を観ていただくお子様向けのイベントです。

5歳から小学校3年生までのお子様と保護者の方、あわせて240人を募集します。11月6日（日）の午後で、参加費は、お一人500円（大人・子ども同額）です。お申し込み、詳細は↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/01\\_kids/index.html#ohanashimono](http://www.iiclo.or.jp/03_event/01_kids/index.html#ohanashimono)

●東日本大震災で被災した子どもたちに本を贈るー

・その1『いっしょだよ』募金のお願い！

子どもたちに本を！被災地の図書館や学校、幼稚園、保育所、地域文庫などに子どもの本を購入して送ります。ご協力をお願いします。

・その2「本の寄贈を希望される施設」の募集！

学校、幼稚園、保育所、児童館、地域文庫など施設の年齢対象、人数等にあわせ、適当と思われる本を購入し保護カバーをつけて送付します。

上記2件とも 詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/>

お申込み／お問合せ：当財団『いっしょだよ』キャンペーン事務局

主 催：財団法人 大阪国際児童文学館 / 大阪府書店商業組合

毎日新聞社 / 毎日新聞東京・大阪・西部社会事業団

●寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

お申込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

---

## 【2】コラム

---

\*\*\*\*\*

《1》 Y O ! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

\*\*\*\*\*

『ペテフレット荘のプルック』上・下 アニー・M・G・シュミット/作  
フィーブ・ヴェステンドルフ/絵 西村由美/訳 岩波書店 2011年7月

あらすじ：赤いクレーン車に乗って住むところを探していたプルックがペテフレット荘の一番上にある塔に住み、そこに住む優しい本屋さんのペンおじさんや潔癖症のピーカピカさんとその娘アーヒエ、21階に住む父親と6人兄弟のドンドンシンさん一家や、ハトのドリーやゴキブリのザザなど

と暮らす様子を描いた短編連作で、一編ずつ完結しながら、後半のキジバト森が撤去されるのをみんなで阻止するところまで、大きい物語にもなっていく。

○：この欄を話し合っ、一年になりますね。新刊紹介というのではなく、話題提供するという目的でやってきましたが、そうなっていますかしら？「話題提供」を意識して選んだのがこの作品ですが、1971年にオランダで書かれたものが40年後「新刊」として、いま、なぜ、出版されるのか考えてみる必要があるように思いました。

Ｙ：赤いクレーンに乗った8歳ぐらいの男の子が一人で塔のてっぺんに住むという設定は子どものあこがれだなと思って読みました。潔癖症の母親から娘を救ったり、破壊されそうになった森を守ったり、現代に通じるテーマも描かれていて、「長靴下のピッピ」の系譜でありながら、もっと年齢の低い子どもにも喜ばれる作品になっています。

○：そういうふうにも考えられますが、さまざまな問題を結局は周りの大人たちが解決してくれるという守られた子ども像が描かれているという点では1970年代までの安定した家庭にいる子どもだけが「楽しめる」ものだったのでは？

Ｙ：そういう意味ではプルックにもう少し個性があればと思います。けれども、シュミットは才能あるストーリーテラーなので、幼年期に、読んででもらったら、楽しめるでしょうね。挿絵の子どもの描かれ方も1970年代らしさを感じる点でした。一方で、挿絵の色使いが美しく、カラーで出版されてよかったなと思いました。絵は細かいところもおもしろいですし。

○：大人を徹底的にやっつけるという点が当時では革新的だったでしょうし、いまも、それは変わっていないということでしょうか。いまの子ども読者の反応が知りたい作品です。

Ｙ：ヨスネビトやオオカミなど、風刺を利かせた大人像が楽しかったです。また、プルックが虫や動物たちと話ができるのも子どもにとってはあこがれるのではないかなと思って読みました。

\*\*\*\*\*

## 《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 13

\*\*\*\*\*

### 「その5 絵本の選び方(8) 絵本を評価する：ことば」

絵本のことばを評価する際には以下の点について考慮する必要があります。まずは、絵本は「読んでもらうのに適したメディア」といわれるように、絵を見ながら耳からことばを楽しむことが多いため、声に出して読んだときに情景が浮かんでくるか、会話がいきいきとしているか、ストーリーが理解できるか、文章にリズムがあって耳で聞いて楽しいかということが評価の観点になります。特に擬音語や擬態語が使われている場合、それらの音の響きが作品全体でどのような意味を持っているかが計算されてかかっているかどうかということが重要です。

次に、絵とことばのかかわりです。絵とことばがそれぞれどのような役割分担をしているか、絵で描いていることをことばが必要以上に説明していないか、一方、登場人物の内面や会話など、ことばでしか表現できないことを的確に表現しているか、絵で描かれた人物像や情景とことばで表現されたそれとが統一した世界を作り上げているかという点が評価の観点になります。

当財団特別顧問の中川正文先生はいつも「絵本が日本語の最後の砦」とおっしゃいます。子どもは気に入った本は何度も何度も繰り返して読み、ことばを覚えてしまいます。そのように体に浸み込む可能性のある絵本のことばは、人とのコミュニケーションや深い思索を可能にする本来ことばの持つ力を十分に発揮していることが重要だと思います。絵本に出会うことによって子どもがことばの魅力に気づくような本を選びたいと思います。(Y)

\*次号では「その5 絵本の選び方(9) 絵本を評価する：大きさ ビッグブック」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思えます。(Y)

\*\*\*\*\*

### 《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

\*\*\*\*\*

資料所在データベース13回目。今回ご紹介するのは、論文探索に活用できる「雑誌記事索引」と「国文学論文目録データベース」の二つのサイトです。

#### ●雑誌記事索引（国立国会図書館）

<http://opac.ndl.go.jp/> から[雑誌記事索引の検索／申込み]へ

#### ●国文学論文目録データベース（国文学研究資料館）

<http://base1.nijl.ac.jp/~ronbun/>

「雑誌記事索引」は、国会図書館が収集・整理した国内刊行和雑誌（1949年以降）の記事をデータベース化したもの。これまでの収録タイトル数は約2万件に及び、昨年には記事数が1,000万件を突破しました。かつては学術雑誌のみでしたが、その後一般誌にも採録の幅を広げています。論文を調べる際、最も活用されているサイトとってよいでしょう。

一方、「国文学論文目録データベース」は、大正元年から平成20年までの国文学関連論文を対象とし、約48万6,000件の記事を収録。戦前からの文献が掲載されているほか、国文学に特化しているのが特徴です。

両者はどのように違うのか、試みに当財団発行の「国際児童文学館紀要」全24号に掲載している収録記事全163件を検索してみました。

「雑誌記事索引」は、95件がヒット。最新号（2011年3月刊）がしっかり入力されていた一方、逆に創刊（1985年3月刊）から10年分くらいの古いところはデータがありませんでした。他方の「国文学論文目録データベース」では90件がヒット。ほぼ同数ですが、創刊号からの記事が収録されている反面、直近3年分ほどはデータがなく、また国文学に関連が薄いと見なされたのか、すべての記事が収録されているわけではありませんでした。

他に、NII論文情報ナビゲータ「サイニィ」もあります。こちらは、一部の



論文は本文そのものが読めます。<http://ci.nii.ac.jp/> (国立情報学研究所)

同じような論文検索でも、各サイトによって対象記事の選定方針、現在の入力状況などが異なります。ヒットせず＝ない、と判断しがちですが、使用する際には、データベース作成の趣旨や目的、収録データの実状をきちんと認識しておく必要があります。(J)

※次号は、資料所在データベース篇〈その14〉の予定です。

\*\*\*\*\*

《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

東日本大震災で被災した子どもたちに本を贈る「いっしょだよ」キャンペーンの取り組みとして、9月13日に大阪府立中央図書館で大阪府子ども文庫連絡会、大阪府書店商業組合の皆さんとともに、被災地の保育所や幼稚園、小学校など16カ所872冊の発送作業を行いました。

そして、本が到着する15日にその中の2カ所を訪問してきました。宮城県亘理(わたり)郡亘理町で、復興に向けて自主的に様々な取り組みをされているコミュニティカフェ「亘理いちごっこ」では、近くの仮設住宅に住む0・1歳の子どもと母親が箱の開封と、おはなし会に参加。『りんご』(童心社)や『ぼーるがころころ』(ひかりのくに)『きんぎょがにげた』(福音館書店)などの絵本を楽しみました。赤ちゃんからおじいさん・おばあさんまでが訪れる施設であるため、絵本を通して交流が広がればよいなと思いました。

続いて、福島県伊達市立保原幼稚園は4・5歳の幼児40人がお昼寝のあと、『きょうはみんなでクマがりだ』(評論社)などの絵本やおはなしを楽しみました。おはなし会のあとは、お贈りした絵本を自由に見る時間になり、子どもたちは先生に読んでもらったり、数人で見たりしながら楽しんでいました。放射線の影響で外遊びの時間が制限される中、絵本が少しでも子どもたちの時間を楽しいものにしてくれたら、と思いました。(Y)

---

### 【3】全国のイベント紹介

---

#### ●シンポジウム「子どもの物語・大人の物語」

日 時：平成23年9月24日(土) 午後2時～4時

会 場：大阪産業創造館(大阪府中央区本町1丁目)

パネラー：今江 祥智(児童文学作家)、里中満智子(マンガ家)  
越水利江子(児童文学作家)、令丈ヒロ子(児童文学作家)  
ひこ・田中(児童文学批評家)

対 象：中学生以上

定 員：100人 予約制(往復はがき、またはE-mailで申込み)

参加費：500円

主 催：日本ペンクラブ

#### ●田島征彦絵本原画展

会 場：大阪府立大型児童館ビッグバン

期 間：開催中 11月13日(日) まで

内 容：堺市出身の絵本作家、田島征彦氏の代表作品の一つ「じごくのそうべえ」などの絵本原画。旧・大阪府立国際児童文学館に所蔵されていた。

イベント：・ワークショップ 『じごくのそうべえ』の世界を楽しもう

9月23日(金・祝) 午後2時～3時 定員30名

講師：土居安子 当財団主任専門員

・おはなしポップ おはなし会 いずれも午後2時から

10月1日(土)、10月23日(日)、11月12日(土)

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

---

#### 【4】プレゼント

---

1年分の感謝をこめて特別プレゼント！今号のコラム《1》「YO！この本読んだ？」で紹介しました『ペテフレット荘のプルック』上・下をセットで1名の方にプレゼントします。

ご希望の方は、メールで 件名「IICLO MAGAZINE NO.13プレゼント希望」とし、

(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス (5)このメル

マガのご感想 をお書きのうえ [office@iiclo.or.jp](mailto:office@iiclo.or.jp) にお送りください。

締切は10月8日(土)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

#### 編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

---

1年は束の間、ますます時の流れを早く感じる。それでいて、昨年の今頃は……などと思返そうとしても、何も浮かんでこない。遠い昔のことのよう  
に思える—。これからの1年、2年後のこと、足元を見つめながら強くイメ  
ージを描いていたい。(A)

---

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまで  
お願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

[http://www.iiclo.or.jp/m1\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html) パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

---

発行：財団法人 大阪国際児童文学館 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp

---